

令和 6 年度
生ごみ処理機モニタ一事業
結果報告書

国見町 住民防災課生活交通係

令和 6 年 11 月



1 事業概要

(1) 実施内容

福島県は令和4年度一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）で、生活系及び事業系ごみにおける一人1日当たりのごみ排出量が全国ワースト1位となり、本町はその中でも1,382gと、県内ワースト1位となっています。また、そのうち生活系ごみは1,013gと、こちらも県内ワースト1位です。これによりごみ減量の取組みをさらに進めていくことが重要となります。

本事業は生ごみ処理機を使用し、生ごみに含まれる水分を減らすことで、ごみの重さを減少させる取り組みとし、モニターの募集を行い実施しました。

(2) 実施期間

令和6年6月3日（月）～令和6年10月11日（金）

（貸出しは1か月間。4世帯は2か月間の延長を実施。）

(3) 貸出機器

パリパリキューブライトアルファ PCL-33（シマ株式会社）

貸出し台数：2台（おおよそ3人用）

処理モード	処理物	処理量（目安）	運転時間
通常モード	※ ¹ 乾燥しにくいもの	約400～700g	約9時間
節電モード	※ ² 乾燥しやすいもの	約200～400g	約4～9時間

パリパリキューブ PPC-11（シマ株式会社）

貸出し台数：3台（おおよそ5人用）

処理モード	処理物	処理量（目安）	運転時間
パリパリモード	※ ¹ 乾燥しにくいもの	約500～1,000g	約6～12時間
ソフトモード	※ ² 乾燥しやすいもの	約300～700g	約3～9時間

※¹ 主に野菜くず・果物くず・ご飯・麺類・野菜の皮等を想定

※² 主に肉類・魚類・脂分を多く含む物等を想定

（左：パリパリキューブライトアルファ）

（右：パリパリキューブ）



(4) 依頼内容

- 1 機器使用時における生ごみ重量の測定及び記録
- 2 貸出期間終了時のアンケート回答

(5) モニター数

16世帯

2 検証結果

(1) 生ごみ減量数及び減量率（概要）

機種	使用前	使用后	減量数	減量率
パリパリキューブライトアルファ	79.62 kg	29.07 kg	50.56 kg	63%
パリパリキュー	151.46 kg	40.51 kg	110.94 kg	73%
合計	231.08 kg	69.58 kg	161.50 kg	70%

(2) 生ごみ処理減量数及び減量率（詳細）

パリパリキューブライトアルファ

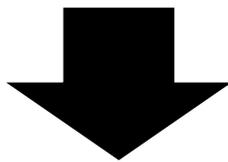
	稼働日数	使用前	使用后	減量数	減量率
モニター①	19日	6.80 kg	2.21 kg	4.59 kg	67%
モニター②	31日	13.8 kg	5.89 kg	7.95 kg	57%
モニター③	30日	14.6 kg	6.94 kg	7.65 kg	52%
モニター④	27日	9.31 kg	3.23 kg	6.08 kg	65%
モニター⑤	16日	8.25 kg	3.20 kg	5.04 kg	61%
モニター⑥	31日	10.69 kg	3.22 kg	7.46 kg	70%
モニター⑦	31日	10.03 kg	2.57 kg	7.45 kg	74%
モニター⑧	23日	6.09 kg	1.78 kg	4.30 kg	71%
平均	26.6日	9.96 kg	3.52 kg	6.45 kg	65%

パリパリキュー

	稼働日数	使用前	使用后	減量数	減量率
モニター①	31日	5.15 kg	1.48 kg	3.66 kg	71%
モニター②	62日	40.31 kg	11.78 kg	28.52 kg	71%
モニター③	44日	26.6 kg	8.24 kg	18.36 kg	69%
モニター④	23日	7.51 kg	2.81 kg	4.70 kg	63%
モニター⑤	28日	8.62 kg	2.36 kg	6.26 kg	73%
モニター⑥	48日	37.34 kg	6.65 kg	30.68 kg	82%
モニター⑦	44日	19.61 kg	4.80 kg	14.81 kg	76%
モニター⑧	11日	6.31 kg	2.37 kg	3.93 kg	62%
平均	36.4日	18.93 kg	5.06 kg	13.87 kg	73%

(3) 機器の使用状況 (例)

りんご 2 個分 実施前 271 g



実施後 43 g



実施結果：減少数 228 g ・ 減少率 84.1%

使用時間：10月27日(日) 21時 ~ 28日(月) 深夜2時までの計6時間

消費電力：0.623kwh

電気代：22.91円

(電気料金の単価は、東北電力従量電灯Bの電力料金 36.37円を使用)

【生ごみ処理機を使用したものの例】

ご飯系：白米、カレー、肉じゃが、焼きそばなど

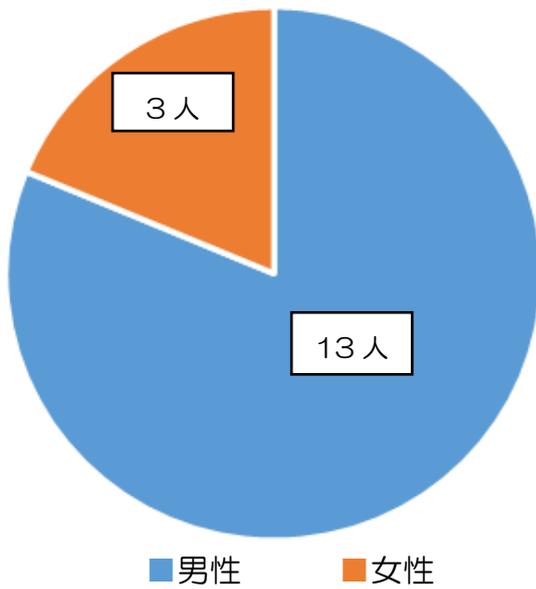
野菜系：じゃがいもの皮、にんじんの皮、白菜、キャベツの芯、トマトなど

果物系：いちご、スイカの皮、ももの皮、りんごの皮、バナナの皮など

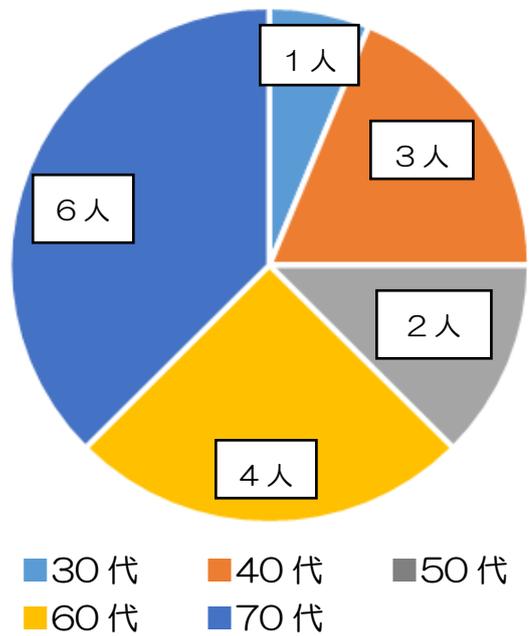
その他：お茶葉、麦茶のカスなど

(4) アンケートの結果

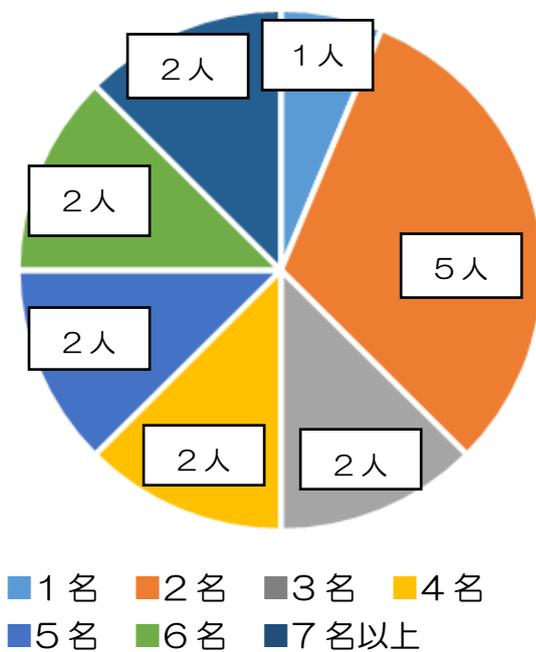
問1 性別(回答者)



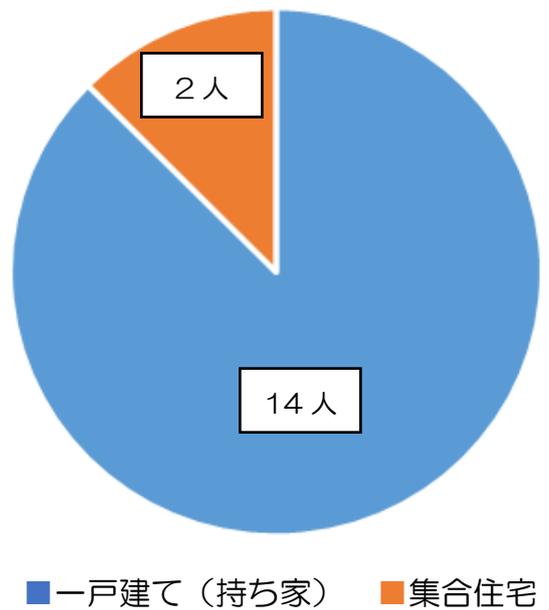
問2 年齢(回答者)



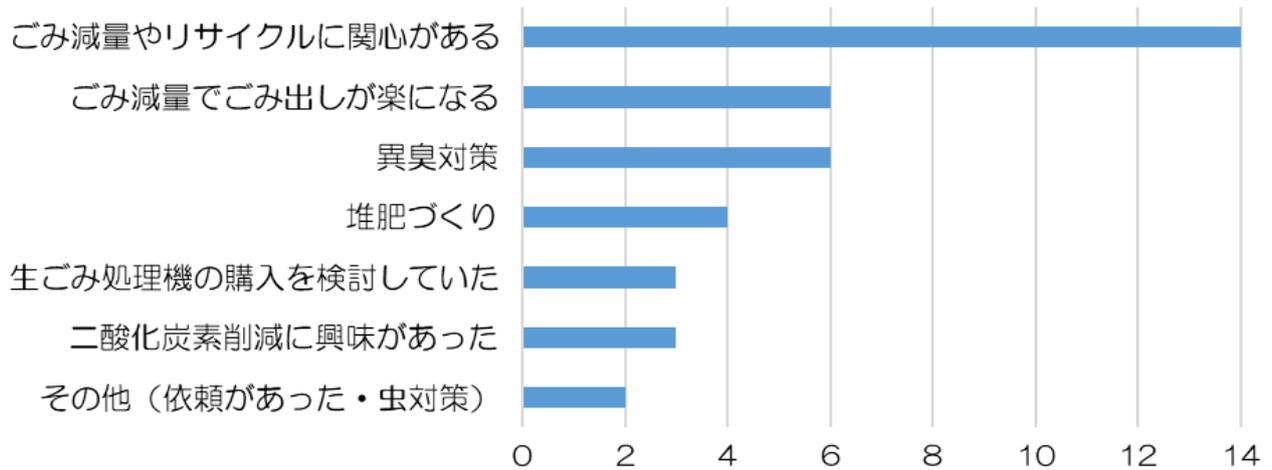
問3 世帯人数



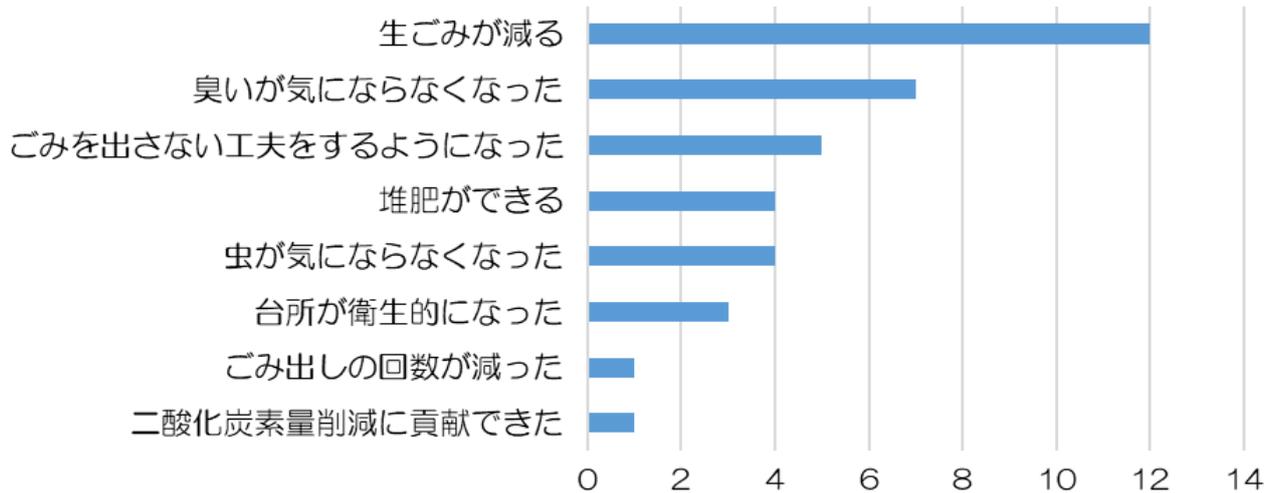
問4 居住形態



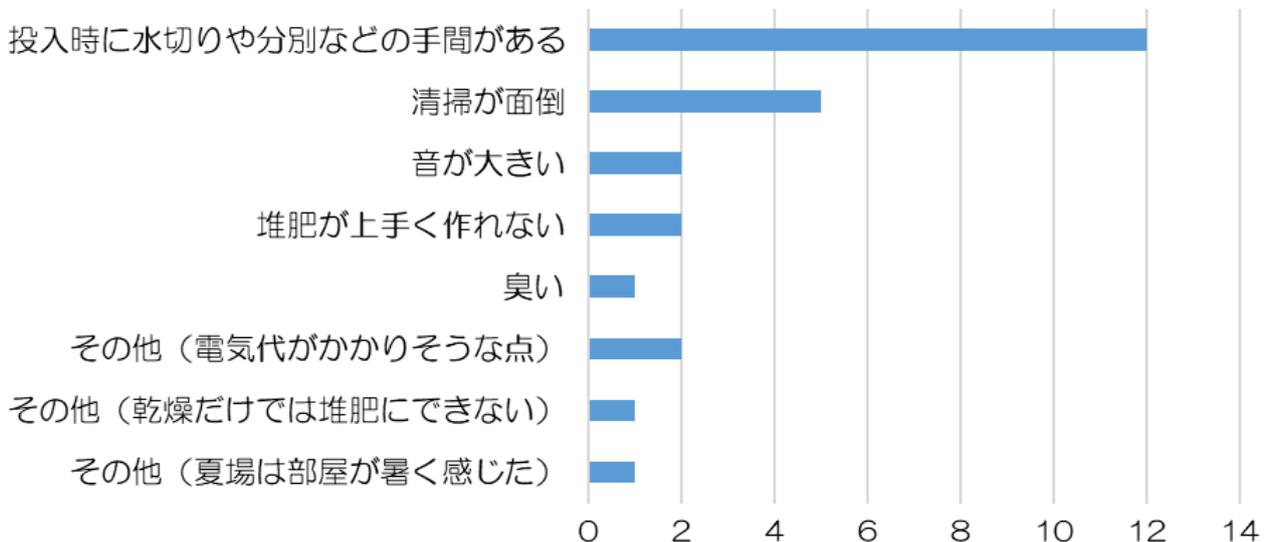
問5 モニター参加希望理由（複数回答可）



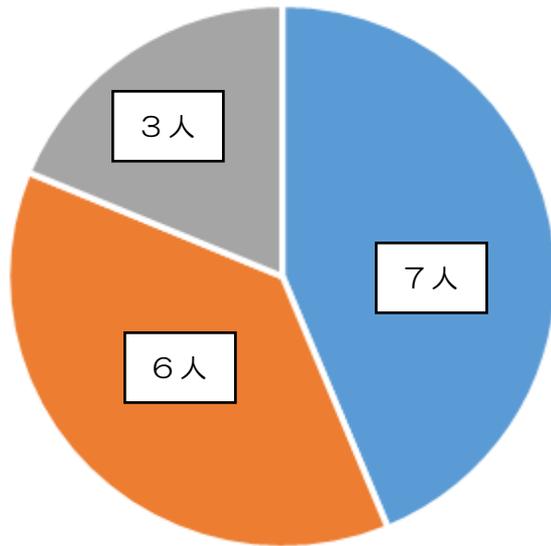
問6 利用してよかった点（複数回答可）



問7 利用して困った点（複数回答可）

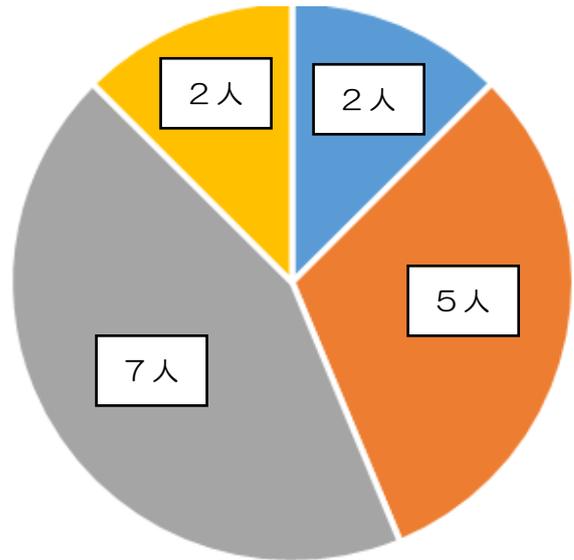


問 8 処理物の活用方法



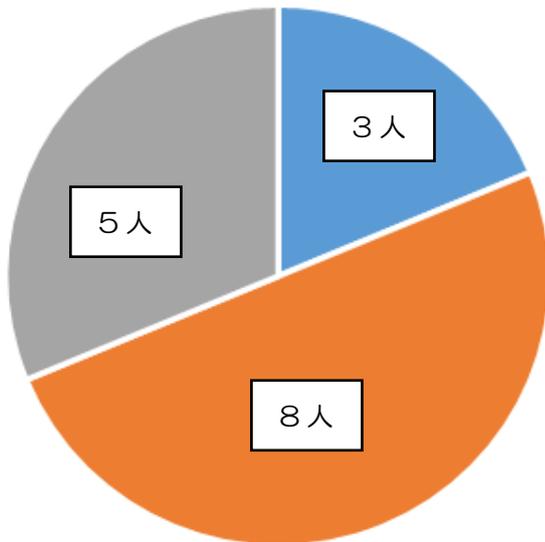
- すべて燃やすごみ
- すべて堆肥として野菜か花の栽培に利用
- 一部堆肥として使用し、残りを燃やすごみ

問 9 生ごみ処理機の評価



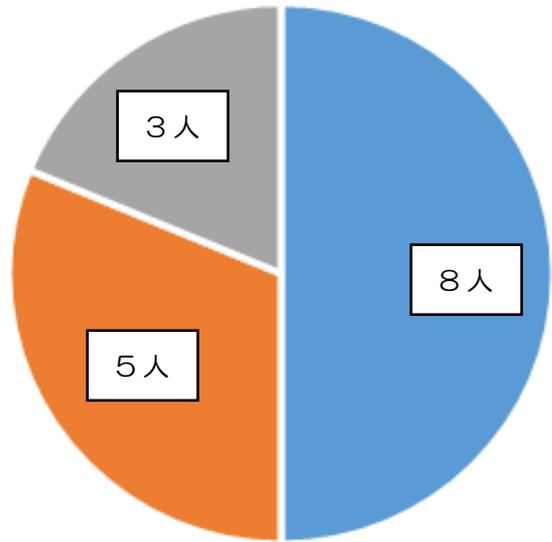
- とても良い
- よい
- どちらともいえない
- あまり良くない

問 10 生ごみ処理機を購入
したいと思うか



- 思う
- わからない
- 思わない

問 11 生ごみ処理機を購入に対する補助金
があれば利用したいと思うか



- 思う
- わからない
- 思わない

使用した感想・意見等（自由記載）

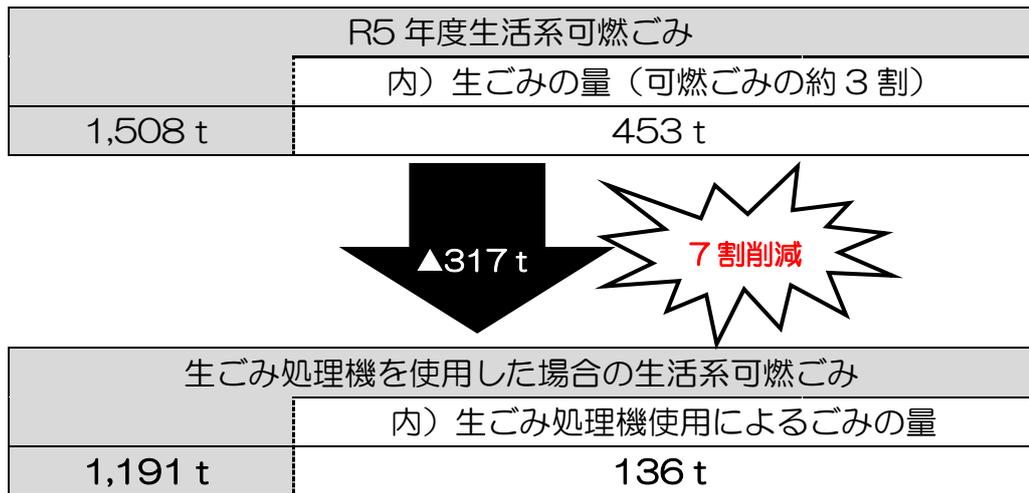
- ①生ごみ処理機ではごみ減量の一助となるが、根本的な減量ではない気がする。ごみ減量の最良策はごみ分別が大切である。今回の乾燥式生ごみ処理機では、軽量化はできたが、堆肥にした場合に再度水分を含み、生ごみ堆肥と差ほど変わりは感じなかった。粉碎して発酵させる処理であれば、循環型の肥料に使用できる。コンポストも簡単で使用可能、ただし使用方法が悪いと腐敗してしまう。
- ②生ごみをすべて投入可なのか迷った。生ごみ処理機が小さい。
- ③当町はもっとごみ減量策を危機としてとらえ、全町での取り組みが必要ではないか。
- ④深夜料金が安い契約でもあり子供にいたずらをされないように夜中に利用した。
- ⑤もやし、きゅうり、レタスなど生ごみが出にくい野菜を買うようになった。
- ⑥処理にかかる時間が結構長かったので、気になりました。夜間、深夜で使用するようにはしましたが、その時間内に終わらないこともあり、電気代が気になりました。
- ⑦燃やすごみの重量はかなり減った気がしました。水分もなくなるので、汚れを気にする必要がないのは良かったです。堆肥として利用する場合、もっとごみの量を減らすことができたと反省しています。購入したら全部堆肥にしたいです。
- ⑧処理後はすべて畑へ堆肥として利用した。処理に時間がかかり、電気代が気になった。
- ⑨利用してみて、メリットがあまり感じられなかった。
- ⑩桃の時期を迎えると生ごみが一気に増えて処理しきれなくなった。
- ⑪毎日の生ごみを計測すると大量の生ごみを出していることがわかった。改めて、一人ひとりがごみ減量に参加していかななくてはいけないと思った。
- ⑫紙などもリサイクルについても関心を持つ必要がある。雑誌やチラシなども簡単にゴミ箱に捨てているのを見るとがっかりする。
- ⑬生ごみ処理機に生ごみを入れる際に、水分を絞れるものは絞ってから入れるようにしました。また、熱を発生するので、夜は涼しかった時間に使用していました。（夏は日中部屋が暑く感じるため。）
- ⑭夏場は生ごみから虫が発生してしまうことがあるのですが、生ごみ処理機を使用してから、虫の発生がなく、臭いもいつもよりは気になりませんでした。また、生ごみの量が減ったことによりごみの重さが軽くなり、ごみ捨て場まで運ぶのが楽に感じました。

- ⑮軽くなることを実感できてよかった。ほとんど肥料に混ぜた。時間がかかるため、電気代が気になる。
- ⑯野菜等は細かく刻むことが必要。茹でたジャガイモは減量にいたらなかった。
- ⑰リサイクルのごみについては、段ボール、雑誌、アルミ缶、新聞等はよく見るが、紙の表示（紙製容器包装）包装箱等が出ていなかったのので、試しに出したが、収集していただいた。実際に出して大丈夫でしょうか。
- ⑱ごみは軽くなってよいのですが、手間と電気代を考えるとほかの方法はないものかと思えます。脱水すればごみの減量ができることがわかったので、今後、生ごみがでてから町の指定袋に入れるまでの工程を見直そうと思いました。
- ⑲桃の皮やナスの皮で受け皿が着色します。変色しない材質の製品がいいです。
- ⑳生ごみ処理機の減量が想像以上に大きく、軽量になりびっくりした。
- ㉑生ごみはもともと肥料として利用するので、減量を特に気にしていなかったが、燃えるごみに出すのであれば1/5くらいに減るし、水気もなくなり、ごみとしても小さくなるので、とても良いと思いました。
- ㉒生ごみを目一杯入れると、減量があまりできない。そのため、生ごみの量を減らして入れた。生ごみの大きさによって、減量があまりできない。
- ㉓2人用のごみ処理機では、とても足りず、残りの生ごみは、畑に捨てた。野菜を作っている家庭では、生ごみの量が多いから借りた処理機では間に合わない。太陽の熱を利用し、生ごみを乾燥させる方法はないか。
- ㉔夏場にはどんなに頑張っても虫が出て、悩まされていたので夏場であれば、電気代がかかろうが使いたいと思うが、その他の季節にはボカシを混ぜて堆肥にするほうが簡単。
- ㉕家の電気をソーラーで賄っている方は良いと思うが、買っている電気が、化石燃料を燃やして作られているのがほとんどだと思うので、二酸化炭素の削減に本当に貢献できているのかは疑問だと思う。
- ㉖虫が出ないのはとても良いと思っていたが、終わりの頃なぜかショウジョウバエが発生してしまった。とても不快だった。
- ㉗ごみの量が半分になると、臭いが気にならなくなるのがすごく良いと思う。処理機で出た生ごみは畑へ肥料としても利用できるのでも良いと思いました。
- ㉘家庭で処理機を使う件数が多くなればごみ減量になるので良いのではないのでしょうか。

3 事業実施報告まとめ

生ごみ処理機モニター事業の参加者からは、ごみを出さない工夫をするようになったなどの感想があり、ごみに対する意識の変化が見られました。

全体として231.08 kgの生ごみが、69.58 kgまで減少（▲70%）し、ごみの排出を大幅に削減できました。仮に町全体で生ごみ処理機を使用してごみ減量に取り組んだ場合、以下のとおりとなります。



R5 年度 一人1日当たりのごみ排出量 → 786 g (R4 県内ランキング 48/59)
生ごみ処理機を使用した場合 → 681 g (R4 県内ランキング 26/59)
(上記は生活系ごみの排出量について、R4 年度のランキングを照らし合せたものです。)

また、課題として、電気代や騒音、掃除の手間があるなどの意見もあることから、コンポスターや非電動式生ごみ処理機などを普及させることで、それぞれの家庭に合ったごみ減量の取組みを推進していきたいと考えます。

併せて、生ごみだけの削減では根本的なごみ削減につながらないため、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を積極的に実施し、分別の徹底やごみを出さない意識づけを町全体へ浸透させるため、定期的にごみに関する広報を実施していきます。

ごみ減量は毎日の積み重ねが重要です。ごみ減量に向けて行政と町民が協同しながら継続した取組みを行うために、情報提供や普及啓発に努め、さらなる減量施策を検討していきます。